

ハイブリッドリポソーム(人工細胞膜)を用いた 難治性疾患(がん、リウマチ等)治療を目指した研究



研究キーワード

ハイブリッドリポソーム(人工細胞膜)、がん治療、アポトーシス(プログラム細胞死)、
アルツハイマー治療、リウマチ治療、医用生体工学、医薬化学、生体関連化学、動物腫瘍学

生物生命学部 応用生命科学科

市原 英明(イチハラ ヒデアキ) 准教授

難治性疾患(がん、リウマチなど)の化学療法剤の開発を目的として、本学名誉教授の上岡先生が開発された新しいナノパーティクル(微細粒子)であるハイブリッドリポソームを用いて研究を行っています。とくに、がん治療に関しては、細胞レベルにおける培養がん細胞に対する制がん効果とメカニズムに関する研究に携わっています。さらに、細胞レベルで顕著な治療実績を上げているハイブリッドリポソームの新薬承認に向け、動物レベルの前臨床試験(担がんモデルマウスによる治療効果および正常動物の安全性)に関する研究を行っています。

この研究は将来どんなことに役立ちますか？

薬剤の開発に関連した研究ですので、将来、薬の開発をしたい方には興味深い研究だと思います。